

## 藤並の森

Vol.88



▲ギネス公式認定証を持つ川田氏とシンデレラコレクションの数々

シンデレラと言えばディズニー映画を思い浮かべる方が多いと思いますが、世界には1000種類以上のシンデレラ物語がある事を知っていますか？

さかのぼること323年前、フランスのベルサイユ宮殿でシャルル・ペローが民間伝承をまとめ「魔法使いやかばちゃの馬車、ガラスの靴」などのファンタジー要素を取り入れ作った作品が、今でも世界で語り継がれているシンデレラ物語です。では、魔法使いもかばちゃの馬車もガラスの

靴も出でこないシンデレラ物語を知っていますか？その1つがドイツのグリム兄弟によつて1812年に書かれたシンデレラ物語です。また、日本でも明治以降、外国から様々な絵本がやって来ます。

その翻訳には日本の文豪と呼ばれる人達が翻訳を手掛けています。

坪内逍遙がシェークスピアを翻訳し、森鷗外がアンデルセン物語を、村岡花子は赤毛のアンを翻訳して、井伏鱒二はドリトル先生を、そして川端康成はラング童話全集で

シンデレラを翻訳しました。

また、面白い事に夏目漱石が、1901年に英語教育法研究のために留学していたロンドンのヒポドローム劇場でシンデレラの劇を観劇していました。そして帰国後、「吾輩は猫である」を出版しました。今回のシンデレラ

展でその夏日漱石がロンドンで見たシンデレラパントマイム劇を掲載した記事を初めて展示します。

この文豪が翻訳した中でも坪内逍遙が1900年に翻訳したシンデレラがとても面白い！

魔法使いが弁天様、舞踏会が園遊会、ガラスの靴が扇など当時の日本人にも分かりやすいように翻訳をしています。

特に日本人らしい人柄に訳されて

いるのは「シンデレラは王子様に見

初められ、翌日にも舞踏会が開かれ魔法使いが「また舞踏会に行きたいか？」とたずねるとシンデレラは「昨日はお姉さんが王子様とお話を出来なくて可愛そうだったので」と遠慮して行きませんでした。」この部分の翻訳は世界でも日本だけだと思います。

そして絵本の挿絵には少女雑誌の画家として活躍していた中原淳一さん、「きいちのぬりえ」でぬりえブームを起こした篠谷喜一さん、人形作家の川本喜八郎さん、子どもを題材とした作品を描いていたいわさきちひろさん、少女の目をキラキラした星に描いた高橋真琴さんなどもシンデレラの挿絵を描いていました。

今回ご縁があり高知県立文学館さんからお話を頂き改めて日本人が描くシンデレラ物語の魅力を知る事が出来ました。

また、高知と言えば坂本龍馬！1867年に出版されたシンデレラの絵本などを展示します。

海外に興味のあつた坂本龍馬が、シンデレラの話を聞いていたとしたらジョン万次郎から話を聞いた河田小龍からか、イギリスと貿易をしていたイギリス人から聞いていたかと思うと心が躍る思いになります。

もし、詳しく知っている方がいましたら教えて頂けましたら嬉しいです。

(シンデレラ研究家)

リレー随筆

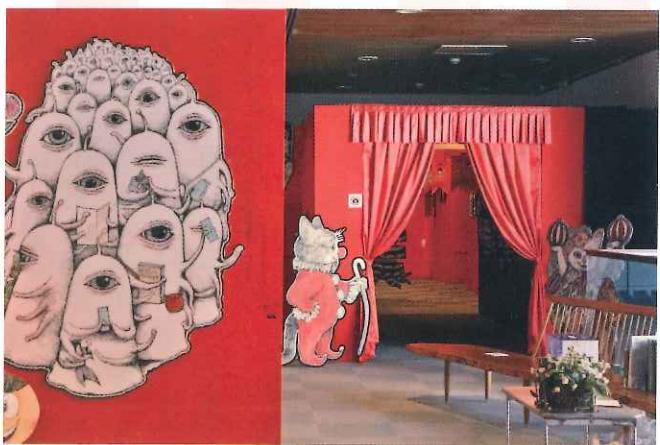
## 「日本の文豪が翻訳したシンデレラ物語」………… 川田 雅直



# ヒグチュウコ展 CIRCUS

2020.2.1 SAT 3.29 SUN

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)



▲ロビーから企画展示室へと続くヒグチュウコさんの世界

20代・30代を中心として幅広い層に熱心なファンの多い画家・ヒグチユウコさん。都内を中心に作品を発表する一方、絵本の執筆や企業への作品提供、自身のブランドによるブロダクトデザインなど、現在、画家としての領域を超えた幅広い分野で活躍しています。ヒグチさんが細密なタッチで描くのは、可愛くて、ちょっと怖い：不思議な生きものたちです。

本展覧会は、ヒグチさんが約20年にわたる画業のなかで描きためた作

品から、500点を超える作品を一挙に紹介する初の大規模個展となつており、これまで全国を巡回、このたび、四国では初となる高知での開催となりました。

メインテーマである「CIRCUS（サーカス）」は、「楽しいけれど、どこかはかなさを感じる場所」という意味が込められています。展示室の中には、サーカステントに見立てる空間が登場し、本展のために描き下ろした作品や絵本の原画などを含めた作品を一堂に公開。ヒグチさんの作品が動くアニメーションや、ぬいぐるみ作家の今井昌代さんとの共作となる立体作品など、楽しい見どころ盛りだくさんです。

展示室へと続く入口アプローチには、作品がぎっしりと並んだ絵の回廊が皆様をお出迎え。サーカス始まるワクワク感を盛り上げてくれます。

また、ロビーには、ヒグチさんの絵本をゆっくり楽しめる読書コーナーや、高知会場限定企画として、デビュー作からこれまで発刊された絵本の原画が勢揃い。ほかにも、可愛くもどこか不穏で怖いホラー作品が集結するコーナーや、作品集「BABEL Higuchi Yuko Artworks」に掲載された作品を展示するコーナーなど、ヒグチさんの世界観を余すことなく紹介してい

ます。  
また、ロビーには、ヒグチさんの絵本をゆっくり楽しめる読書コーナーや、高知会場限定企画として、ヒグチさんもファンという幕末土佐の絵師金蔵、略して「絵金」を紹介するコーナーもあります。この機会にぜひともヒグチユウコさんの世界に浸りに、文学館にお越しください。皆様のご来場をお待ちしています。

(学芸課／道脇夕加)



▲高知会場限定企画！「絵金」紹介コーナー

# シンデレラ展

～語り継がれる幸せの魔法～



▲再現ドレス(制作:文化服装学院)

会期:令和2年(2020)

4/11 SAT → 6/14 SUN

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

## 「シンデレラ展」ご案内

夢に向かって努力を続け、幸せを手に入れたシンデレラは、現在でも多くの人に愛される物語です。今回、ギネス記録にも登録されたシンデレラコレクションを所有する川田雅直氏のご協力を得、古今東西の衣装などをご紹介します。



▲ガラスの靴  
(制作:なかむらガラス工房株式会社)

ディズニー映画の原案でもあるシャルル・ペローの「サンドリヨン」、あるいは小さなガラスの靴」(1697年)と、ドイツのグリム兄弟の「灰かぶり」(1812年)がもともと有名なシンデレラの物語ですが、実はシンデレラの物語ははるか昔から世界各地に存在しています。シンデレラの歴史や類話などをわかりやすくご紹介します。

## 世界のシンデレラ



## シンデレラの きほんのき



## 日本のシンデレラ



▲漱石が見たシンデレラ劇の記事

産業革命で急速に発展したイギリス、「アメリカン・ドリーム」を抱くアメリカ、ペローとグリムを擁するヨーロッパ、中国や東南アジアなどさまざまなくでシンデレラは絵本化されていきました。絵本を見ると、時代や文化の違いでシンデレラの衣装や小物などが異なるなど、読み解くほどにさまざまな発見があります。

その他、夏目漱石がロンドンで見たシンデレラ劇の記事や、菊池寛、川端康成、壱井栄など文豪が書いたシンデレラなど、貴重な資料や絵本をご紹介します。シンデレラ展は、復元したドレスの展示やデジタルアート、フォトコーナーなど体験型展示が豊富でイベントも盛りだくさん。どの世代も楽しんでもらえる内容となっています。

春は文学館で、シンデレラの世界を満喫してみませんか?

(学芸課／川島禎子)

# 常設展 虫めがね

変わる常設展を  
ご紹介！

昨年末、常設展「現在の作家コーナー」をリニューアルしました！



としてのみならず、絵画展を開催するなど様々な分野で活躍されています。

草稿「メカニズム」は、「蘇鉄」69号

カニズム」の原稿で、当時の「蘇鉄」編集者の一人であった猪野睦氏より当館に寄贈された資料です。掲載された詩誌「蘇鉄」69号と併せて展示しています。当時のこと振り返り、「詩学」21巻6号（1966年、詩学社）掲載の「南国土佐の詩人たち」には、「終戦後のうつろな時代、わたしもまた『蘇鉄』という詩誌のふしぎな力にさそわれた。一時期、数篇の詩を書きおり、この詩誌にそれが掲載されることが何よりの生きがいだった」と記しています。

## ■吉田類色紙「酒と文学展」

吉田類さんは作家・俳人。酒場や旅をテーマに酒場と酒場をめぐる人間関係を執筆。俳句愛好会の主宰やテレビ出演、個展開催など多方面で活躍されています。

今回のリニューアルは、以前よりご紹介していた山本一力さん・嶋岡晨さん・有川ひろさん・志水辰夫さん・西澤保彦さん・畠中恵さん・藤原紹沙子さん・中脇初枝さんの展示に加え新たに辻堂魁さん・門田隆将さん・吉田類さんの展示スペースを設けました。

新しく生まれ変わったこのコーナーから、草稿と色紙を紹介します。

## ■嶋岡晨草稿「メカニズム」

嶋岡晨さんは詩人・フランス文学者（現代詩専攻）。詩集で多数の賞を受賞。詩人

賞作、近作など多数展示し、魅力溢れる作家、近作など多数展示し、魅力溢れる

この他にも現役作家のデビューアワヤ受賞作、近作など多数展示し、魅力溢れる

# 「馬場孤蝶 生誕150年記念展」

生誕150年記念展  
を終えて

本展では、馬場孤蝶と島崎藤村や樋口一葉といった文壇で活躍した人々との交流や孤蝶の文学を中心にご紹介しました。

孤蝶と藤村は、明治学院時代の同級生であり、孤蝶が高知共立学校（現在の土佐女子の前身）の教師を務めていた明治26（1894）年2月に孤蝶を訪ね旧交を温めています。

展覧会では、馬籠の藤村記念館が所蔵する、孤蝶宛て藤村書簡を借用。記念館では、これまで展示する機会がなく、高知での初公開となりました。

書簡は、孤蝶が高知で教師をしていた明治25（1893）年から、孤蝶が亡くなる4年前の昭和11（1936）年までの9通が残されており、本展の目玉となりました。

内容は、近況報告や講演の依頼、孤蝶の俳句、短歌、書画等についての批評等であり、特に大正5（1916）年1月にパリのソルボンヌから送られた絵ハガキには、「い

ろいろ御心配を掛けました。三四月の頃には、小生も当地を立ちたいつもりで居ります」と書かれており、姪駒子との禁断の恋愛を経て、この年に帰国した藤村の動向を裏付ける貴重な資料となっています。

他にも、台東区立一葉記念館からは、「たげくらべ」などの複製原稿や孤蝶の軸などの資料をお借りしました。来館者の方々からは、これらの珍しい、貴重な資料に「何度も通いたくなるような、幅広く、奥行きのある展示内容」とのお言葉をいただきました。

また、記念講演会では、怪談文学に造詣の深い文芸評論家・アンソロジストの東雅夫さんに「孤蝶と、おばけと、ミスティリー」と題し、孤蝶が活躍した、明治から昭和にかけての怪談ブームを中心にお講演いただきました。

東さんは「現実には、あり得ないとされる話で、読者を揺さぶられる作家は白眉。挑戦しがいがあったのではないか」とし「明治41（1908）年、「怪談ルネッサンス」の年、与謝野寛や孤蝶たちは「不思議譚」と題する座談会を開催。その中で、孤蝶は、一葉の母親から幽霊の訪問をうけたといいう不思議な話を聞いた。と語っている。」といつたエピソードもご披露くださいました。

他にも、クイズや文学散歩などを開催。孤蝶の文学と魅力を発信した45日間の幕を閉じました。これからも高知の文学をご紹介していきたいと思います。

最後になりましたが、ご協力を賜りました関係各位に、心より御礼申し上げます。

▲島崎藤村 馬場孤蝶宛て 書簡（所蔵 藤村記念館）

# 土佐文学かんぱ 86

## 私小説作家——上林曉

高橋 正

### 資料受贈報告

—寄贈資料から—

明治大正隨筆選集(19)『土佐五人隨筆集』

田中貢太郎編 人文会出版部刊

大正15(1926)年10月  
325頁 四六判

佐々木靖章氏寄贈



私小説の伝統を輝かした作家のひとり、上林曉が没して40年になる。昨年1月の大学入試センター試験、国語の問題に上林の名作「花の精」が採用されて、上林文学健在なりと安心した。

本名徳廣嚴城、明治35年、高知県幡多郡田ノ口村(現・黒潮町)の旧家の長男として生まれた。県立第三中学(現・中村高)、熊本の五高を経て、東大英文科卒。改造社の記者を経て宿題の作家を志す。

昭和13年、「安住の家」「ちちははの記」で、自己の資質に合う私小説の道を拓いた。私小説は、作者自身を主人公として登場させ、人間とは何かを追求する、一見地味な小説だ。

上林は生活苦、戦争、妻の発狂・介護、死去、二度の脳溢血など、次々と襲いかかる試練にも屈することなく、珠玉の作品を次々と発表、数々の賞に輝き、芸術院会員にも選ばれた。昭和55年没、70歳。



黒潮町入野松原にある記念碑。「上林曉生誕之地」の文字は川端康成の染筆。左の「梢に咲いてゐる花よりも地に散つてゐる花を美しいとおもふ」は上林の直筆で上林文学を象徴する言葉である。

悪化し、目も見えなくなつた妻の看護のため、病院に泊まり込んだ約10日間の生活が克明に描かれている。敗戦直後の飢えの時代が背景だ。

ある日のこと、「私」は自分の弁当といつても芋数切れだが——を開けてみると一切れの芋もない。妻が「わたしが食べたわ」とけろりとした顔でいう。妻を激しく罵って、病院から帰宅した「私は夜夕飯を食べていると停電になつた。わざとろうそくも点けずに、目の見えない妻の境地を体験してみた。「それは恐ろしい世界」であった。「救ひの全然ない妻」に罵声を浴びせた「私」の罪の深さに心が乱れたとある。

病気の妻に対するいくしめの情と、あさましいエゴイズムとの激しい振幅の中で、「私」の精神が浄化され、高められてゆくプロセスは読む者的心を打つ。

(高知高専名誉教授)

田中貢太郎「明治13(1880)~昭和16(1941)」は、実録ものや怪談、旧土佐藩を軸に明治初期の政界の裏面を描いた小説『旋風時代』など、大衆的な作品で人気を博した作家。

今回紹介する『土佐五人隨筆集』は、貢太郎が土佐の五先輩で異色のある文学者と仰ぐ、中江兆民、黒岩涙香、幸徳秋水、田岡嶺雲、大町桂月の隨筆を編んだもの。5人のうち秋水、嶺雲、桂月とは生前交流があり、桂月は師にあたります。貢太郎は序言でそれを逸話や自身との関わりを記し、刊行の趣旨について「この異色ある郷貫の先輩を記念すると共に、その片鱗を後進の士に呈したいがためである」と述べています。

本書は元々『土佐五名家隨筆集』という書名で刊行されたのですが、わずか一ヶ月余り後、改題して発行されています。巻末に「お断り」の紙片が貼り付けられており、

受贈報告(令和元年11月~令和2年1月)

敬称略

▼公文豪・「坂東真砂子写真」他

▼有川ひる・「EVERGREEN LOVE

Tú dien tranh ve thec voi (植物園鑑) ベトナム語版」有川ひる著 NHU NU訳 AZ Vietnam

刊」他

▼鷗島農・「みらいらん 5号 池田 康編 洪

水企画刊」他

▼吉川泰寛・「文集 白楊 昭和26年度末特集号

山本三生編 改造社刊」他

▼藤本知子・「四国の姥捨山伝説とその背景

渡辺裕」著刊」

▼山下多加子・「計正増補 土佐遺聞錄 寺石正路

著 片桐開成社刊」他

▼岩波書店・「定本漱石全集 第24巻 書簡 下

夏目金之助著 岩波書店刊」

▼植田紀子・「句集 泡沫うたかた 植田紀子著 角川文化振興財團刊」

▼仁平道明・「俳句講座 第7巻 特殊研究篇

著 山下多加子・「計正増補 土佐遺聞錄 寺石正路

著 片桐開成社刊」他

▼藤本知子・「四国の姥捨山伝説とその背景

渡辺裕」著刊」

▼山下多加子・「計正増補 土佐遺聞錄 寺石正路

著 片桐開成社刊」他

▼日本歌人クラブ・「日本歌人クラブアンソロジー 2019年版 現代万葉集 日本歌人クラブ編 NHK出版刊」

▼日本歌人クラブ・「日本歌人クラブアンソロジー 2019年版 現代万葉集 日本歌人クラブ編 NHK出版刊」

題名が当局の忌諱に触れ、「五名家」を「五人」と改めて発売せねばならなくなつたこと、幸いにして内容の改訂は免れたことが記載され、奥付にも訂正紙が貼られています。

また、大逆事件で刑死した秋水のみ口絵

の肖像写真や小伝がなく、代わりに一篇の漢詩が掲載されており、当局の目を念頭に

編集上の苦心があつたことが窺われます。

本書が発行されたのは治安維持法公布の翌年。本書は、言論の統制が一段と厳しさを増してゆく世相を物語る資料と言えま

す。時局柄、刊行に難がある事をおそらくは承知の上で、当局に睨まれる存在であつた秋水、嶺雲ら先人の人と文を後世に伝えようとした貢太郎の氣概を感じさせる一冊

# 「スポーツと文学～作家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学～」を開催します！

令和2(2020)年4月1日(水)～令和3(2021)年3月21日(日)

常設展企画コーナーで開催中の「猪野陸追悼展」は、3月22日(月)で終了となります。多くの方にご来場いただき、ありがとうございました。

今年度の企画コーナーは、日本では56年ぶりに開催となる夏季オリンピックに絡め、スポーツと文学をテーマに展示いたします。

1896年、第1回近代オリンピックがアテネで開催され、1964年には、アジアでは初となるオリンピック東京大会が開催されました。これらの大会には、西條八十や武者小路実篤をはじめ、多くの文学者が記者として派遣され、特に東京大会では三島由紀夫をはじめとする作家が会場でオリンピックを目にして、その様子を取材記事やエッセイなどで伝えています。

高知県でも各大会に選手が登場し、華々しい成績を収めました。彼らは手記を残しており、当時のオリンピックに懸けた思いを感じることができます。また、特派員として派遣された作家たちは、観戦記として選手たちの奮闘のようすを伝えてくれました。

本展では会期を2回にわけ、前期は7月下旬から開催され、東京オリンピックにあわせ、



▲後列中央の一番背の高い選手が田中英光か（稻門艇友会 提供）

文学者の見た・聞いた・書いたオリンピックとその時代についてご紹介します。

例えば、映画「東京オリンピック」の

撮影班として関わった安岡章太郎、東京オリンピック時に作られたワシントンハイツに、新聞配達員として出入りしていた山本

一力や、オリンピック村新聞の監事として活躍した横山隆一など、当時、オリンピックを間近で見た高知出身の作家を中心に、写真や著作とともにご紹介します。また、田中英光をはじめとするロサンゼルス大会出場選手たちの様子をまとめた「オリンピックロサンゼルス五輪動画」（北海道博物館蔵）もご覧いただけます。

また、後期（1月2日～3月21日※予定）からは、「物語られたスポーツ」とし、古代から人々に愛されたしなまれた相撲や蹴鞠、馬術などのスポーツ（武芸）を、「古事記」や「源氏物語」などの作品の一節や、高知の人々が相撲や乗馬をする様子が描かれた絵巻などの場面をあわせてご紹介します。

アスリートたちの『あの一瞬』をとらえた物語の数々をお楽しみいただければと思います。

（学芸課／野々村昭美）

## 若尾瀬水資料より、和歌二首を紹介します

■ 楽が平道の努力を褒めた和歌

うつくしき人の心をめつるまに  
我やまひたにわすられに  
けり

これは、今村楽が「南

路誌」編纂の旅を続ける  
武藤平道に詠んだ歌です。

今年度、ご遺族から寄贈された若尾瀬水資料群。今回は『嘯風弄月』と題された資料より、土佐近世文人の歌を二首ご紹介します。

武藤平道が大浜の樂の小屋を訪問した際に詠んだ

### ■妻を恋う鹿持雅澄の和歌

安芸の大山をこゆるとき  
あきかぜのふくのさとに妹をおきて  
安芸の大山こえかてぬかも 雅澄

※□は文字欠落

『万葉集古義』の著者・鹿持雅澄が詠んだ、妻を恋う歌です。秋風が吹く福井の里に妻を置いて、この安芸の大山を越えると高知が見えなくなるので、なかなか越えられない、という意味です。高知城の杉の段には、この歌碑が据えられています。

平道は父の著述である『南路志』を助けて各地の史料を探査している途中でした。

『南路志』は土佐の歴史・地理・民俗・宗教・文学などに関するさまざまな資料を百三十巻にまとめた、近世土佐を代表する大史料集です。編纂の旅を行く平道の孝行へ送る、樂の最大限の賛辞です。

妻・きくは、貧しい中研究に励む夫を支えて三九歳で亡くなり、鹿持は妻を偲ぶ歌を多く残しました。

土佐は歌枕のない地ですが、この歌であえて土佐の地名を枕詞として用いるところに鹿持の矜持を感じます。

これらの資料を所有していた瀬水は、大学時代に俳壇を追わされて卒業後郷里に戻り、大正10年にようやく俳壇復帰します。今回紹介した鹿持、そして樂の歌に詠まれた平道は、辺境である土佐の地において大著書き上げた人です。これらの歌が不遇な瀬水にどれだけ励みになつたかを思うと、胸に迫るものがあります。



（学芸課／川島禎子）



▲武藤平道の訪問時に感謝する歌文



ヒグチユウコさんによる複製原画やグッズが並んでおり、いつもの文学館ショップとは異なった様相を呈しています。彼らのグッズをどうぞお手に取ってご覧ください。

(総務事業課／中澤 淑)

可愛くもどこか不穏で、少し怖いけれど、何とも魅力的なキャラクターたち。彼らのグッズをどうぞお手に取ってご覧ください。

ヒグチユウコさんが高知会場のために描き下ろしてくださった、文学館限定のポスター（三輪車）も販売しています。数に限りがありますので、お早めにお買い求めくださいませ。

頂き、当館は毎日大変な賑わいを見せております。ユウコ展「CIRCUS」では、たくさんのお客様にご来館いただきま開催中の「ヒグチユウコ展 CIRCUS」では、たくさんのお客様にご来館頂き、当館は毎日大変な賑わいを見せております。

## ショップより

ただいま開催中の「ヒグチ

館長室から

### 童話のなかの夢

4月11日からシンデレラ展が始まる。

半世紀も昔のことだが、シンデレラをはじめ、いわゆる童話を夢中で読んだことを思い出す。

こうした童話の中では、必ず主人公は不運に見舞われ、理不尽な悪意が向けられていて、そのたびに私も悲しい気持ちになつたり、時には怒りがわいたものだ。しかし、主人公と一体になつて読み進み、ついに、「そして一人はずっと幸せに暮らしました」で物語が終わると、子ども心にも安堵と勝利、幸福感が広がり明るい気持ちになつたものだ。

このように、大抵、童話では幸せな未来を予言して「めでたし、めでたし」と物語は終わるのだが、時を経て大人になるにつれ、現実の世界では、実は未来はここからが本当の始まりなんだという厳しい真実に気付くことになる。

多くの文学作品は、多様性に満ちている。

夢にあふれたものもあれば、事実や人間の姿を冷徹なまでに描いて、時には読み手に容赦なく現実を突きつけて来るものもある。

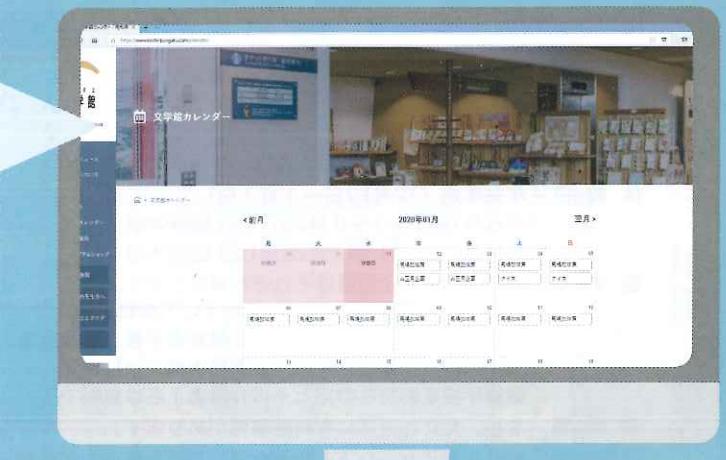
その中で、現実世界ではありえないかも知れない夢と希望と善意に満ちた世界を私たちに提供してくれる童話の数々。

生きづらいといわれる現代を生きている私たちに、夢を届けてくれる童話の世界。

子どもたちだけでなく、時には、大人も子どもの頃に還り、童話の世界に浸り、たとえひとときではあっても、幸福を感じて欲しいと願っている。

(岡崎順子)

### 当館ホームページがリニューアルしました！



当館のホームページに、カレンダー機能が追加されました。HPの左側に新設された「カレンダー」というバナーをクリックすると見ることができます。

これによって、その日に行っている文学館のイベントが一目でわかるようになります。また、カレンダーに書かれているイベント名はそれぞれ色分けされ、クリックすると詳細な案内のページに飛ぶようになっています。

文学館HPを見れば、お出かけ前にすぐに文学館のイベントをチェックできるだけでなく、イベントをはしごして一日文学館を満喫する…なんてこともできるかも。

みなさん、ぜひご利用ください！

(学芸課／川島禎子)

## ● ● ● 高知県立文学館 カレンダー ● ● ●

## 展覧会案内



## ヒグチユウコ展 CIRCUS

会期 令和2年2月1日(土)～3月29日(日)

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 会期中無休

場所 文学館 2階企画展示室

観覧料 500円(常設展含む) 高校生以下無料 20名以上の団体は2割引

空想と現実を行き交う自由な発想とタッチで、作品制作のみならず絵本の刊行など幅広い活躍をみせる画家・ヒグチユウコさんの、自身初となる大規模個展です。



## 次回企画展予告

## シンデレラ展

会期: 令和2年(2020)

4/11 SAT → 6/14 SUN

## ～語り継がれる幸せの魔法～



会場 高知県立文学館 2階企画展示室

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般500円(常設展含む) 高校生以下無料 20名以上の団体は2割引

夢に向かって努力を続け、幸せを手に入れたシンデレラ。どんなに辛くともいつも前向きで一生懸命なシンデレラの物語は、私たちをあたたかい希望で満たしてくれます。

本展では、ギネス記録にも登録されたシンデレラコレクションを所有する株式会社アトランスチャーチ(プリンセスミュージアム)のご協力を得て、古今東西のシンデレラの絵本や絵画、再現された衣装などをご紹介します。



## 関連イベント

## 講演会

4月11日(土) 午後2時～

演題 「シンデレラが幸せをつかんだ7つの習慣」

講師 川田雅直氏(シンデレラ研究家) 場所 文学館1階ホール

定員 100名 要観覧券※事前申し込みが必要です。

要観覧券

## 工作イベント「ティアラを作ろう！」

身につければシンデレラ気分！すてきなティアラを作ろう！

4月28日(火)、29日(水・祝)、5月5日(火・祝)、6日(水・祝)

午後2：00～午後4：00 随時受付(作業時間は30～60分ほどです)

場所 高知県立文学館1階こどものぶんがく室

参加費 要当日観覧券+材料費100円 申込 不要(当日、直接会場までお越しください)

要観覧券

## ガラスの靴で撮影会☆

本物のガラスの靴でシンデレラなりきりフォトを撮影しよう！

6月6日(土)、6月7日(日) 午前10：00～午後3：00

場所 高知県立文学館1階ホール(試着室)、2階ロビー(撮影)

参加費 要当日観覧券

申込 不要(当日、直接会場までお越しください。先着順で撮影を行います)

※撮影はお客様ご自身のカメラやスマートフォンでお振りください。

※撮影会ではガラスの靴を履いて歩くことはできません。座った状態での撮影となります。

※ドレスは何着かご用意していますが、ご自身でお持ちのドレスのお持ち込みも可能です。

## サイレント映画上映会

約100年前の貴重な无声映画フィルムを朗読と演奏でお楽しみください。

5月30日(土)、6月14日(日) 午後2：00～

場所 高知県立文学館1階ホール 朗読 当館カルチャーサポーター

演説 NPO法人こうち音の文化振興会

定員 60名 要観覧券※事前申し込みが必要です。

要観覧券

## シンデレラ・スタンプラリー

会期中、館内3箇所にあるスタンプを集めた方に、オリジナルバッヂをプレゼント！

日時 シンデレラ展会期中 参加費 要当日観覧券

申込 不要(当日、直接会場までお越しください)

要観覧券

## おはなしキャラバン「土佐の高知のシンデレラ」

5月2日(土) 午後2：00～2：30 ※作品：「仁淀の川風」その他

6月6日(土) 午後2：00～2：30 ※作品：「ままでお藤」その他

場所 高知県立文学館1階こどものぶんがく室 参加費 無料

申込 不要(当日、直接会場までお越しください)

内容 土佐民話紙芝居のなかから、シンデレラに似たお話「仁淀の川風」(越知町)、「ままでお藤」(佐川町)などをご紹介します。

要観覧券

## 朗読の会「プリンセス・ストーリー」

5月16日(土) 午後2時～

出演 カルチャーサポーター 参加費 無料 場所 文学館1階ホール

## イベント情報

## 文学マイスター講座

● 第11回(令和2年3月28日) 参加無料・事前に申し込みが必要です。

演題「高知の現役詩人⑤鈴木義夫 自作を語る」 講師 鈴木 義夫 先生(詩人) 場所 文学館1階ホール

## 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)

※6月18日(木)～6月20日(土) 臨時休館

※9月7日(月)～12月26日(土) 臨時休館

観覧料 一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

## 交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バスく県庁前行>「高知城前」下車、北へ徒歩5分またはJR高知駅行>「北はりまや橋」下車、徒歩20分
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

〒780-0850

高知市丸ノ内1丁目1-20

電話 088-822-0231

FAX 088-871-7857



高知県立  
文学館